

(様式第1号)

平成20年度第3回 芦屋市健康増進・食育推進計画策定委員会会議録

日 時	平成20年11月25日(火) 13:30~15:30
場 所	芦屋市医師会医療センター2階
出席者	委員長 立花 久大 副委員長 野田 京子 委員 溝井 康雄 委員 大西 富子 委員 中野 久美子 委員 大西 照雄 委員 藤井 清 委員 山中 利加 委員 安田 智巳 委員 磯森 健二 欠席委員 須山 徹, 中條 智子, 上坂 泰代, 伊田 義信 事務局 健康課長 北口 泰弘, 主幹 瀬戸山 敏子 主査 大上 勉, 主査 久保田 あずさ
事務局	保健福祉部健康課
会議の公開	公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 議事
ア 計画素案の検討について
イ その他
- (3) 閉会

2 提出資料

- ・資料1 (仮称) 芦屋市健康増進・食育推進計画【素案】

3 審議経過

【議事】

(立花委員長)

それでは早速会議に移りたいと思います。本日は『芦屋市健康増進・食育推進計画』(素案)の検討に入ります。計画全体の構成と芦屋市の現状についての情報を共有し、計画のめざすものについて皆様からご意見を頂戴し決定していきたいと思います。それでは、事務局より計画素案について説明をお願いします。

(事務局)

それでは、ご説明させていただきます。委員の皆様には事前に計画素案を送付させ

ていただいておりますが、アンケート結果や市関係課、関係団体から提出いただきました調査票を参考に計画素案を作成しております。まだ不備なところも多々あり、また、52ページからの食育推進計画部分につきましては現在も見直し中でございますので、本日は「第1章の計画の策定にあたって」から「第3章の健康増進計画」までにつきましてご検討いただきたいと思います。

それでは、瀬戸山からご説明させていただきます。

資料1（仮称）芦屋市健康増進・食育推進計画【素案】の説明

（立花委員長）

ただいま、計画素案について事務局より説明いただきましたが、4ページの計画がめざすものについて、皆さんのご提案をお聞きしたいと思います。

（安田委員）

2案がシンプルで良いと思います。

（山中委員）

2案の響きが良いと思います。

（大西富子委員）

皆それぞれに良いのですが、できれば、明るい、という言葉を入れていただきたいと思います。あと、職員が考えた案があるのですが、あかるいじんせいやくどうのまち芦屋、というのはいかがでしょうか。

（事務局）

補足をさせていただきますが、この計画がめざすものというのは、素案の17ページ、健康増進計画の体系、及び53ページの食育推進計画の体系のそれぞれの体系図を総括するものとなります。

（溝井委員）

3案が良いと思います。少し構成を変えて「元気な芦屋 みんなが健やか いきいきと」とするのはどうでしょうか。

（野田副委員長）

1案が良いと思います。暖かい家庭という言葉が入っても良いと思います。

（中野委員）

これは健康増進と食育の計画なので、2案か3案が良いと思います。

（大西照雄委員）

2案が良いのではないですか。短い言葉のほうがわかりやすいと思います。

（藤井委員）

私も2案が良いと思います。

(磯森委員)

私も2案が良いと思います。

(立花委員長)

2案が良いと思われる方が圧倒的に多いようですが、違う意見を言われた方はいかがでしょうか。

(安田委員)

17 ページの高齢期のところにある、いつまでも、という言葉が印象的だったので、長期的に考えるという意味で、いつまでも、という言葉で2案の最初に持ってきて「いつまでも みんなで健やか 健康あしや」というのはどうですか。

(大西照雄委員)

いつまでも、というのは高齢者に向けた言葉なので、適切でないと思います。

(中野委員)

2案は健やか、健康と同じ意味の言葉が並んでいるので「みんなで健やか 元気なあしや」などに変えてはいかがでしょうか。

(立花委員長)

「みんなで健やか 元気なあしや」という意見でまとまってきたようですが、皆さんご了解いただけますか。

(一同，異議無し)

(立花委員長)

それでは16 ページからの健康増進計画に関して検討していきたいと思います。まず、20 ページの、母親がうつ病にかかることもあるという表現について、皆さんでディスカッションしたいと思います。

(大西富子委員)

あまりにも強烈的な表現だと思います。もう少し検討をしたほうが良いと思います。こんにち赤ちゃん事業というのはどのようなことですか。

(事務局)

家庭訪問のことですが、そのような漠然とした名称ではなく、21 ページに行政の取り組みとして、新生児訪問とこんにち赤ちゃん訪問という名称を記載しております。

(立花委員長)

うつ病という表現についての議論に戻りたいと思います。

(野田副委員長)

不安になってすぐにうつ病にかかるわけではないので、このような表現は避けたいわけですね。ただ、孤立してしまいがちなので皆で話をしましょうということですね。

それでは、うつ病という言葉を削除してはどうでしょうか。

(大西富子委員)

そのような方が多いことは事実ですが、ここに書いてしまうのはどうかと思います。

(溝井委員)

多いのであれば、はっきりと記載すれば良いのではないですか。

(野田副委員長)

ここに書かれていて初めて気づき、支援をするきっかけにもなるのではないかと思います。

(安田委員)

うつ病とうつ状態は違うと思います。

(大西照雄委員)

この文章を読むと、すべての母親がうつ病にかかるという印象を受けます。

(山中委員)

初めての出産で周りに相談相手がいなければ、精神的に不安定になります。

(野田副委員長)

すべての母親がうつ病にかかるわけではないけれど、皆で支えるべき状態だと気づかなければならない問題であれば、書いておいたほうが良いと思います。

(立花委員長)

「育児不安の拡大」から「うつ病にかかることもある」の間に大きな開きがあるように思います。「さらに抑うつ的に」などの言葉を入れるというのはどうでしょうか。

(事務局)

それでは「さらに抑うつ状態になってしまうことが課題となっています」という表現に変更したいと思います。

(野田副委員長)

21 ページの関連事業の内容をもっと具体的に書いていただきたいと思います。

(事務局)

新生児訪問やこんにちは赤ちゃん訪問のことですね。あと、子どもの事故防止についての知識の普及と実践の啓発ということで、乳幼児健診のときにチェックリストをお渡ししていますので、このことも取り組み内容に加えたいと思っています。

(野田副委員長)

乳幼児の歯みがき指導についても記載されますか。

(事務局)

21 ページの歯みがき習慣のところに記載します。

(大西富子委員)

低体重児が年々増加している状況とのことですが、その原因は何ですか。

(事務局)

プレ親教室に参加していただいている母親に食事診断を行っています。身長と体重と食事内容を記入していただいで診断するのですが、妊娠前の身長と体重の割合が 18.5 以下の方が非常に多いので、若いときのやせが原因のひとつではないかと思っています。

(溝井委員)

23 ページの体力テストについてですが、数年前に小中高の生徒を対象に、咬合力と体力測定との比較をして学会に発表したことがあります。しかし、それ以降、教育委員会から体力テストを実施しないと聞いていたのですが、現在も行われているのですか。

(事務局)

前回の学校教育課とのヒアリングでは、全体的に子どもの体力が落ちているということで、運動能力テストを実施して実態の把握をしていくと聞いていますが、名前が違うので、これが体力テストかどうかはわかりません。

(溝井委員)

その点の確認をお願いします。咬合力、すなわち噛み合わせの力は、小学校6年で男女の身長が逆転する頃に関わり、また加齢とともに衰えていきます。咬合力はとても大事で、噛み合わせの力の強い子は、ボール投げ、背筋、50m 走などで素晴らしい記録を出しています。

(立花委員長)

ここで目標値を何%に設定するかをディスカッションするのですか。

(事務局)

国が掲げている目標値をそのまま持ってくるか、現状でまずまず良い数値のものについては、現状に近い数値で目標値を抑えておくか、なかには国の目標値よりも高い現状値もあるので、それについてはハードルを上げる形でさらに高い目標値を設定したほうが良いかについて、皆さんのご意見をお伺いしたいと思います。

(大西富子委員)

28 ページの朝食を欠食する人の現状は国の数値となっていますが、これは県の数値だと思います。

(事務局)

県から出てこない数値が一部ありましたので、その分については国の指標で出しましたが、数値が違っていたようで、これはどこからのデータなのかを確認して、再度掲載

させていただきたいと思います。

（立花委員長）

県の目標値に合わせるか、芦屋市独自の数値を掲げるかにするかが問題ということですね。そのあたりのご意見をお聞かせください。

（大西富子委員）

県より良くなっている項目については市独自の数値を掲げ、県より悪い項目については県の目標値をめざすということにしてはいかがですか。

61 ページで空欄になっている箇所については、県が 20 年 4 月に出している資料を参考になされば、もう少し埋められると思います。

（事務局）

アンケートと取り方が違っているということもあり、一概に比較できないために空欄にしている箇所もあります。

たとえば食生活の改善の意欲のある人という項目を空欄にしていますが、ここについては国や県のアンケートでは、まず自身の食生活が良いか悪いかを問い、悪いと答えた人に対して改善意欲があるか否かを聞いています。これに対し芦屋市のアンケートでは自身の食生活の良し悪しとは無関係に聞いています。ですから割合の比較ができないということです。このような比較できない項目については、現状数値をどこまで上げるかという形でご検討いただきたいと思います。

（事務局）

たとえば 61 ページの、睡眠による休養を十分にとれていない人の市の現状は 19.7% で、県の目標値をクリアしていますね。こういうところをどうするかですね。

（立花委員長）

どのような啓蒙を行えば睡眠がとれていない人の現状値を減らしていけるかが問題ですね。職種によっては十分な睡眠をとりたくてもとれない人もいますからね。

（事務局）

保健センターでは、市民健診を受診していただいた際に、健康づくりハンドブックをお渡ししています。そのなかには十分な睡眠をとりましょうという内容を記載しているので、講演会の開催などにはいたっていませんが、文章での啓発は行っています。また 34 ページからのこころの健康と関連することですが、自殺が主要死因の 6 番目くらいにあります。そのあたりもこの段階でふれたほうが良いのではないかと思います。

（野田副委員長）

達成している値については、目標値を掲げなくても良いのではないかと思います。たとえば 34 ページではストレスを感じている人が多いことがわかるので、そういう問題点にポイントを絞れば市も対策として目標値をたてやすいのではないかと思います。問題があるものについてのみ目標値を掲げるということが良いのではないのでしょうか。問題があるからこそ啓発していこうということで、意味があると思います。

(大西富子委員)

さきほど自殺に関する話がありましたが、自殺率が芦屋市では高いそうなので、そのあたりの対策も考えていかなければならないと思います。

(立花委員長)

項目が多いので、ひとつひとつ検討していくのはむずかしいと思います

(事務局)

今回は案として、市の目標値を入れた形でお諮りをいただきたいと思います。

(立花委員長)

いきいき暮らす元気計画のところの各テーマを基本目標に変えてはどうですか。

(事務局)

そうですね。テーマという文言をすべて基本目標という言葉に変更してみたいと思います。

(立花委員長)

がん検診の受診対象者の規定はどういったものですか。

(事務局)

胃がん、肺がんは40歳以上、子宮がんは20歳以上の女性が受診対象です。

(立花委員長)

ではこの51ページの28.5%というのは必ずしも対象者というわけではないということですね。

(事務局)

アンケートでお聞きしたものなので名目上はそうなりますね。40歳以上の方のみを対象にお聞きすれば良かったかもしれません。

(立花委員長)

20ページの表現についてですが「核家族化の進行なども影響し、母親の孤立等による育児不安の拡大から、母親が抑うつ的になってしまうことなどが課題となっています」という形に訂正するというので、よろしくをお願いします。

(事務局)

目標数値をこちらで入れてみますので、次回はそれに基づいての議論をお願いします。食育推進計画についてはまだ固めきれれておりませんので、次回に提示させていただきたいと思います。

(立花委員長)

今回は1月20日(火)午後1時30分からということをお願いします。

（事務局）

委員会の開催回数は4回程度ということでしたが、計画が遅れている状況ですので、次回以降も、来年度の初めくらいまで委員会を数回開催させていただきたいと思います。全部で6回程度の開催を予定しておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

（立花委員長）

それでは、これで委員会を終了したいと思います。長時間にわたり、どうもありがとうございました。

【閉会】